



天界観(天界観)としての天観(天観)

View of Heavenly Realm as View of Heaven

研究の概要および目的

- **研究背景**

天観(天觀)概念の歴史的展開とその変化様相を探究し、韓国宗教思想の独特な特性を理解

- **比較対象**

東学思想に現れた超越天(超越天)の概念と、大巡思想における九天(九天)および天界観(天界觀)

- **核心的研究の問い:**

- 超越天の介入方式と、上帝人身降世現象の意味論的差異は何か?
- 両思想に現れた天観地観人間観の変化様相は何であり、その意義はいか
- なるものか? 三界観(三界觀)としての天界観が持つ独特な特徴と現代的含意は?

-

- **研究方法**

原典文献分析を通じた概念比較、思想史的文脈内における位置の考察、近代性批判の観点からの解釈学的アプローチ

東学思想の超越天(超越天)概念

- 超越天の人世への初出現

東学思想において超越天は初めて人世に出現し、天観地観人間観に総体的な変化を引き起こした。これは天と人間の関係における根本的なパラダイムの転換を意味する。

- 人間と超越天の関係の変化

人間は今や超越天と直接意思疎通する存在として地位が格上げされる。これは儒教的な天人合一(天人合一)の概念とは区別される疎通方式であり、人間が天命(天命)の単なる受容者から対話者へと転換されることを意味する。

- 限界点意思疎通理解の不足

しかし超越天の出現のみでは、人間がその意を完全に理解することは困難であった。人間の身体で直接降臨しない超越天の限界が、大巡思想の人身降世によって克服される契機となる。

「天主をわが心に奉れば造化はその中に在り。」

- 東経大全 -

東学天観の主要な特徴

- 天地が鬼神であり鬼神が陰陽で疎通
- 上帝を鬼神と表現する実体性の付与
- 人間と超越天が霊的に連結された関係の設定
- 超越天の出現が近代的天観への転換の始点

大巡思想の九天(九天)人身降世

- 九天の意味と上帝の人身降世

大巡思想において超越天は九天(九天)と称される。東学思想では超越天が人世に出現するに留まったのに対し、大巡思想では人間の身体で直接降臨する。これは単なる霊的出現ではなく、肉体的顕現を通じて天地改造の直接的役割を遂行する。

- 天と地の改造

「今、天も作り変え地も作り変え、水も漏れぬよう度数を組んでおいた.....」上帝は人間として生まれてこそ人間の立場から天地の姿を見ることができたゆえ、自ら作った天と地を作り変える存在へと転換する。これは「後天開闢」を通じた全面的変化を志向する。

- 人身降世の哲学的背景

人身降世の背景は、マテオリッチによって始まった物質中心の西洋近代性が招いた天下尽滅の状況である。大巡思想は西洋的近代性が引き起こした人類絶滅の危機を警告し、これに対する根本的解決のために上帝の直接的降臨が必要であったことを説明する。

「上帝が九天におられたとき、神聖仏菩薩などが 上帝でなければ混乱に陥った天地を正すことができないと訴えたため....自ら世に降ることを定められた。」

- 『典経』 「豫示」
1-

東学思想との差別性

- 実体性九天の人身降世により超越天が実体を持つ
- 変革方式開闢(更新)ではなく改造(再構成)
- 三界の拡張天界地界人間界の力動的相互作用
- 神明の作用神明界の積極的介入と体系化

天地公事と三界観の再構成

- 天地公事(天地公事)の意味

九天上帝の人身降世以降に遂行された天地公事は、天と地を作り変える改造作業である。これは単なる更新ではなく、水も漏れぬよう度数を組み、天と地の根本原理を再定立する過程である。

- 三界(三界)の構造的特性

大巡思想の三界は天界(天界)、地界(地界)、人間界(人間界)に区分され、各界は独自でありながらも相互に密接に連結された有機的世界を形成する。この三界は神明という媒介を通じて互いに疎通し影響を及ぼし合う。

- 才(才)と界(界)の差異

伝統思想の「三才(三才)」が天地人の三つの大きな要素または才能を意味するのに対し、大巡思想の「三界(三界)」はより複雑で多様な内部世界を持つシステム的概念である。界(界)は神明界のような複雑な構造を含む。

「今、天も作り変え地も作り変え、水も漏れぬよう度数を組んでおいたので、各自の限度に従い到達するにつれ、新たな基盤が開かれるだろう。」

- 『典経』「教法」3-4 -

仏教道教との比較

仏教の三界

欲界(欲界)、色界(色界)、無色界(無色界)で構成

→ 天界のみを細分化した概念

道教の三界概念

天(天)、地(地)、水(水)の三元(三元)、または上界(上界)、中界(中界)、下界(下界)の区分

→ 具体的体系化の不備

大巡思想の三界

天界(天界)、地界(地界)、人間界(人間界)を明確に区分

→ 神明システム基盤の相互作用の強調

神明界の導入と天界観の特徴

- **大巡思想における神明(神明)の積極的導入**

大巡思想は東学思想とは異なり、神明を天地公事の核心概念として導入し、三界の運行と変化に積極的に参与する存在として規定する。これは上帝の人身降世を通じて神明が人間の心に介入する契機が設けられたためである。

- **構造化された神明システムと三界の関係**

大巡思想の天界観は「界(界)」というシステムを通じて非常に詳細な神明の構造を提示する。これは天地
・人三才(三才)の概念を超え、三界(三界)の内部に神明たちの力動的システムが作用することを意味する。

- **神明観の再活性化**

東洋思想において天地(天地)と神明(神明)を共に論じることは、宋明以降の儒学者たちが回避してきたアプローチであった。大巡思想は『郭店竹簡』に現れた古代の神明観を再活性化し、近代的再解釈を試みる。

「今、天も作り変え地も作り変え、水も漏れぬよう度数を組んでおいたので、各自の限度に従い到達するにつれ、新たな基盤が開かれるだろう。また神明をして人の腹中に出入させ、その体質と性格を作り変えて用いよう.....」

- 『典経』「教法」3-4 -

神明概念の変化

東学「天地が鬼神であり鬼神が陰陽である」- 概念的抽象的表現

大巡神明が具体的な実体として人間と相互作用し、宇宙的变化を主導

大巡思想の天界観の特徴

- 仏教の三界(欲界、色界、無色界)とは異なり、天界・地界・人間界
- を包括天界、地界、人間界が同時に力動的に変化
- マテオ・リッチから招来された近代文明の危機を克服する方策としての天界観の提示

東学思想と大巡思想の天観の比較

比較項目	東学思想の天観	大巡思想の天観
超越天の表現	人世に出現し呪文と儀礼を通じて疎通	人身降世を通じた直接的顕現と天地公事
天-人関係	人間が超越天と意思疎通する存在として地位上昇	九天が人間として降世することにより天-人境界の実質的消滅
神明(神明)概念	「天地が鬼神であり鬼神が陰陽」という概念的表現	構造化された神明界システムへ拡張、実体的神明の作用の強調
天観の変化方向	「再開闢」を通じた更新志向	「後天開闢」を通じた天地の根本的改造の追求

主要な差別

大巡思想は、東学思想に始まった天観の変化を、上帝の人身降世を通じてより実体的体系的な形で完成させ、三界(天界、地界、人間界)の構造的関係を再定立する。

近代性への対応

東学思想の伝統を受け、大巡思想はマテオ・リッチに始まった西洋近代性が招いた物質中心の病弊に対する批判的天観を通じて、東西洋文明の葛藤に対する解法を提示する。

結論および意義

思想史的意味

- ◆ 東学思想と大巡思想は東西洋文明の衝突の中で近代性に対する独特な対応方式を提示
- ◆ 西洋近代性が招いた物質中心文明の危機を、天観の再構成を通じて克服しようとする
- ◆ 既存の儒教的天人合一思想から離れ、超越天と人間の新たな関係の定立

現代的含意

- ◆ 物質万能主義が招いた現代文明の危機に対する代案的思惟の提供
- ◆ 人間と自然、超越的存在間の相生的関係モデルの提示
- ◆ 近代以降、東アジアにおいて発生した思想の中で民族主義を超えて人類普遍の問題を認識

韓国宗教史における意

- ◆ 義 韓国的状況における聖・俗の再配置とリミニリティを通じた独創的宗教思想の形成
- ◆ 東学思想に始まり大巡思想において完成された「神明界」を通じた新たな宇宙論の提示
- ◆ 「三界観」により仏教・道教と差別化された韓国的天観・地観・人間観の体系化・人間中心の宇宙論(anthropocentricity)として独特

な位置を確立

質疑応答(Q&A)

本日の発表に対する質問とご意見を歓迎します。

- 連絡先: example@religion-studies.org
- 追加資料: 本研究の全体論文は『韓国宗教学研究』2025年夏号に掲載予定である。